

岡山県立学校施設の長寿命化計画の概要

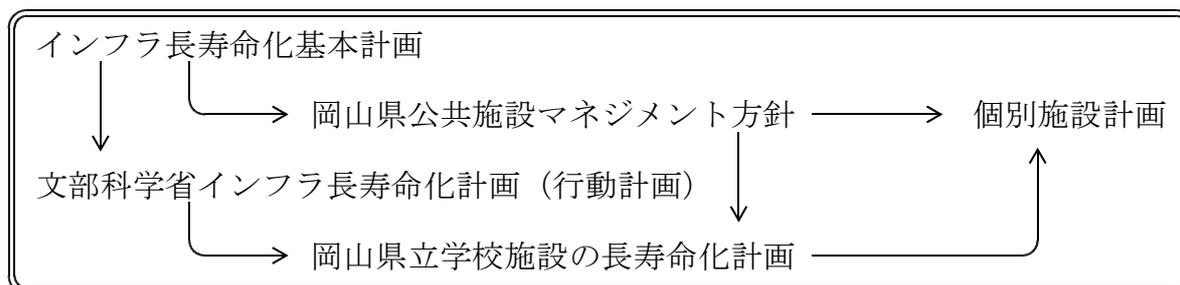
(1) 岡山県立学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

○ 目的

施設の老朽化の状況を早い段階で把握し、施設環境の再生整備と予防保全措置による長寿命化対策を講じることにより、更新費用の抑制や、中長期的なコスト縮減、財政負担の平準化を図るとともに、学校施設の機能確保を図る。

○ 計画の位置付け

- ・ 「岡山県公共施設マネジメント方針」を踏まえ、県立学校の施設整備の方針を定めたもの
- ・ 文部科学省が平成27(2015)年3月に策定した「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」における「公立学校施設に係る個別施設計画」に該当



○ 対象施設

県教委が所管する中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校

(2) 学校施設の目指すべき姿

「第2次岡山県教育振興基本計画」（平成28(2016)年2月策定）に掲げる、子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備に向けて、次のような学校施設を目指す。

- ◎ 安全・安心に配慮した施設
- ◎ 多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる施設
- ◎ 特別な支援を必要とする児童生徒に配慮した施設
- ◎ 自然環境を考慮した施設

(3) 学校施設の実態

○ 学校施設の活用状況等の実態

- ・ 高等学校は生徒数の減少により余裕教室が増加傾向にあり、今後もしばらくはその状況が続くものと予測される。
- ・ 特別支援学校は児童生徒数の急増期は脱したものの、依然として増加傾向にあるため、普通教室が不足している状況である。

○ 学校施設の経年劣化状況の実態

- ・ 耐震診断の結果では、ほとんどの建物でコンクリートの圧縮強度は確保されているが、コンクリートの中性化が相当進んでおり、早急な対策が必要である。
- ・ 「劣化状況調査」及び建築基準法第12条に基づく定期点検の結果では、屋上防水や外壁塗装に劣化が確認されている。また、築後30年以上経過した建物が多いため、電気・水道・ガス等のライフラインや、内装や建具の老朽化が進んでいる。

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

○ 学校施設の規模・配置計画等の方針

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画や岡山県特別支援教育推進プランを踏まえた整備を行う。なお、実施計画等の改定の際には、改定後の実施計画等に則り整備を行う。

○ 改修等の基本的な方針

(長寿命化の実施方針)

躯体の状態が健全である限り、改築（建替）よりも既存建物の長期活用を図る。

(長寿命化改修の対象)

木造や小規模(200㎡未満)な建物等を除き、原則として長寿命化改修を行う。

(予防保全の方針)

老朽化による劣化・破損等の修繕を最小限に抑えるため、各学校の施設管理担当職員は、「岡山県県有施設保全マニュアル」に基づき、定期的に点検を行う。

(目標使用年数の設定)

非木造・・・85年程度

木造・・・60年程度

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

構造体の長寿命化改修やライフラインの更新等とともに、省エネルギー化やバリアフリー化、多様な学習形態による活動が可能な環境の提供など、社会的要請に対応した改修を行う。

(6) 長寿命化の実施計画

老朽化状況などを基に、改修の優先順位付けを行い、「岡山県公共施設マネジメント方針」に基づき、学校ごとに修繕・更新などの実施計画（個別施設計画）を策定する。

(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

5年ごとに進捗状況のフォローアップを行い、その結果を踏まえ、必要に応じて長寿命化計画の見直しを行う。